



おびにしわくわく通信

NO.2

2023.04.11

文責：荒木

子供たちが帯西レンジャーと共に活躍する学校

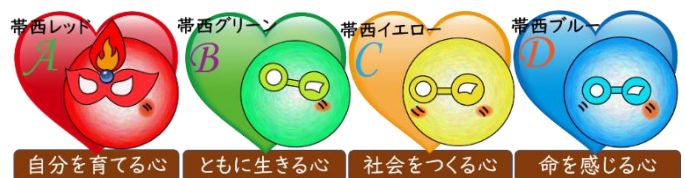
昨年度のわくわく通信NO.2でも触れましたが、転入の方や新入生もいますので、帯西レンジャーについてお知らせしておきます。


子供たちが日頃から勉強している道徳は、「4つの視点」から学んでいます。その「4つの視点」を「4つの心」として「帯西レンジャー」を使って以下のように表すこととします。このように帯西レンジャーに道徳的な意味付けを行うことで、教師が子供を、



道徳科の4つの視点と帯山西小「4つの心」

- A:主として自分自身に関する事
→帯西レッド「**自分を育てる心**」
- B:主として人との関わりに関する事
→帯西グリーン「**ともに生きる心**」
- C:主として集団や社会との関わりに関する事
→帯西イエロー「**社会をつくる心**」
- D:主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事
→帯西ブルー「**命を感じる心**」

あるいは子供同士がわかりやすく心や行動を評価(価値付け)することができるようにしています。



例えば左の写真をごらんください。これは、昨年度の歓迎遠足の後に教室をまわっていたときに写した一枚です。子供たちが遠足を振り返ってどんな心が伸びたのか、どんな心を感じたのかを一人一人がネームプレートを貼って説明しています。ある子供は「 帯西レッドの心が伸びました。わけは、もう歩けないと思ったけど、頑張って最後まで歩いたからです。」ある子供は、

「 帯西ブルーの心を感じました。わけは、踏切で素早く行動し、安全に気を付けたからです。」またある子供は、「 帯西グリーンの心が伸びました。わけは、遠足で今まであまりお話をしなかったお友達と仲よくなれたからです。」と発表していました。このように、評価ツールとして、あるいは自分の目標の方向性を示すものとして、帯西レンジャーを活用していくことにより、子どもたちの道徳性は高まります。

帯西レンジャーを学級・学校、そして家庭の中でどんどん使うことによって、学校教育目標の「みんなが『わくわく』する」に近づき、「子供たちが帯西レンジャーと共に活躍する学校」になると考えています。

学校と子供たち、そして家庭が共に帯西レンジャーを共有して、帯山西小学校をもっと「わくわく」する学校にしていきましょう!昨年度末に配付した下敷きに示してある「心のパズル」を使うことで、共通実践に繋がると考えています。